

農試第291-2号
平成22年4月14日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病害虫防除室
Tel	0776-54-9315
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成22年農作物病害虫発生予察予報第2号

4月の気象概況

天気は数日の周期で変わる見込みです。

3ヶ月予報では、4月の気温は平年並み、降水量は平年並みと予想されています。

[水稲関係]

病害虫名 ばか苗病

1. 予報内容

発生時期：発病最盛期は4月下旬

被害程度：微発、局少発

発生量：育苗期の発生量は平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に種子消毒は浸種前に行い、浸種開始から3日間は換水を控える。また、薬剤の残液は、河川や池などに流さず、適正に処理する。

病害虫名 苗いもち

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりである。

病害虫名 各種苗立枯病（糸状菌）

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるのとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い。

3. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

[大麦関係]

病害虫名 赤かび病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月末

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2. 防除対策および防除上の注意点

- (1) 1回目の防除適期は開花始め～開花盛期である。そのため、開花始め～開花盛期に相当する出穂5日後頃に1回目の薬剤防除を行う。また、1回目の防除の7～10日後に2回目の薬剤防除を行う。
- (2) 出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと多発するので、防除適期を逃さないようにする。そのために、圃場をこまめに巡回し大麦の出穂状況を日頃から確認しておく。

病害虫名 雲形病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2. 防除対策および防除上の注意点

- (1) 本病は進展速度が遅いので、局部発生であれば防除の必要はない。
- (2) 発生の多い圃場では止葉展開期～出穂期に薬剤を散布する。
- (3) 種子伝染するので発病圃場からは採種しない。

病害虫名 株腐病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2. 防除対策及び防除上の注意点

- (1) 麦の生育量が多い圃場では、発生が多くなるので注意する。
- (2) 発生を認めたら、発生初期に薬剤を散布する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病	初発： 5月上旬	(5月) 少発	(5月) 平年：少 前年：並み	1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。
	黒斑病	初発： 5月上旬	(5月) 少発	(5月) 平年：少 前年：並み	1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。
	赤星病	初発： 4月下旬	(4月) 少発	(4月) 平年：少 前年：並み	1)中間寄主のビヤクシ類はできるだけ広範囲に伐採する。 2)防除は開花直前から5月上旬にかけて行う。
ウメ	灰色かび病	果実初発： 4月中旬	少発 局中発	平年： やや多 前年： やや多	・低温により開花の終わりが長引いたので、発生増加に注意する。 ・今後、4月～5月に雨天が続く場合は、適宜追加で防除を行う。
	黒星病	果実初発： 5月中旬	(5月) 少発 局中発	(5月) 平年： やや多 前年：並み	・防除体系に基づき、展葉初期から予防散布を行う。 ・多発園では4月中は防除間隔を10日以内にする。
	かいよう病	果実初発： 4月下旬	少発 局中発	平年： やや多 前年：多	・生育期(4月)に抗生物質剤で予防防除する。 ・降雹後は、2日後に抗生物質剤で防除する。 ・防風対策等を実施する。
	アブラムシ類	加害初期： 4月中旬	少発 局中発	平年：並み 前年：並み	・展葉初期～生育期に防除する。
	ウメシロカイガラムシ(第1世代幼虫)	幼虫発生初期：4月6半旬	少発 局中発	平年：並み 前年：並み	・4月20日頃から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期に防除する。 ・越冬成虫のカイガラ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回防除する。